

R6外部評価ヒアリング (R5事後評価)

ヒアリング調書 (1班)

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	介護予防事業（ゆったり健康サロン）		
担当課	健康福祉課	担当係	介護保険係
日時	令和6年7月11日 9：00～9：15		
質疑応答 (発言者)			
委員	①参加することにより健康マイレージポイントは付与されるか。②11回実施し、85名参加とのことだが1回の開催につき4～5名しか来ていないということか。③フリー参加は会場への送迎はあるのか。		
説明員	①令和5年度までは付与されていない。令和6年度より健康マイレージ事業の対象となっている。②対象集落、開催日によりばらつきはあるが、1回につき5～12名程の参加状況である。③送迎についてはフリー参加の日も行っている。		
委員	リピーターが多いとの事だが、一部の方が多く利用している傾向があるのか。		
説明員	委託業者側でリピーターの方へ声かけをしていることもあり、傾向として出ていると思われる。担当としても課題だと感じている。		
委員	同じ人だけが利用していることにやはり課題を感じる。		
説明員	高齢者でも65歳以上と80歳以上では違う。若い方は自分で移動もでき、開催場所へ行かずとも他の場所で活動することもできるため、新規の方が増えないのではないかと考えている。		
委員	周知、申込みの方法に問題があると感じる。老人会、公民館、委託業者など、多方面からアクセスがあるが、全員が加入していない組織もあるため、申込みの方法を一元化しないと、周知が抜けてしまう方が出る。		
説明員	事務が煩雑になり、二重に通知してしまう、どこまで通知しているのかわからなくなるなど、周知方法についても課題だと感じている。		
委員	活動量の評価が1の理由は何か。		
説明員	事務局から示されている基準に則り計算し、数値としては1となる。		
委員	目標値が高ければ良いという考え方が疑問で、%表示で目標を出しているのはどうなのか。推定健康年齢などではっきりと示すなど、別の指数の出し方もあるのでは。		
説明員	例えば単純に参加者数を目標値に設定すると、事業の本質から逸れてしまうことも考えられる。		
委員	考え方、捉え方の違いということもあるので、検討してほしい。		
委員	全員が健康目的で参加し、入浴はされているのか。		
説明員	体調にもよるが、基本的には全員が入浴されているようである。		
委員	健康なうちに来てほしいという考え方は理解できるが、比較的若い高齢の方は参加したがると思う。何か魅力があって行きたいと思えるようになれば。		
説明員	どのような内容であれば来ていただけるのか、考えていきたいしご教授いただきたい。周知方法だけでなく、根本からの問題と捉えている。		
委員	参加者にアンケートを取っているようだが、内容としては取り繕っているものが多く、本音は出辛いと思う。		
委員	入浴はせずとも参加可能など、周知文の工夫をしていただきたい。		
外部評価の 意見	参加申込方法を見直し、計画的に進めていただきたい。		方向性
			改善

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	いきいき健康教室		
担当課	健康福祉課	担当係	介護保険係
日時	令和6年7月11日 9:15~9:30		
質疑応答 (発言者)	<p>委員 年度の目標値について、参加者数の調整があるようだが、目標値まで達しない調整をしているのであれば、そもそも目標値に齟齬があるのではないか。</p> <p>説明員 参加者の調整は感染症によるもの。5類になり世間的に扱いは緩和されているが、会場が施設であるため、対応を緩めることができない。施設へ入場することができる人数調整には委託先の都合がある。</p> <p>委員 適正に評価できなくなるため、理由があるならば評価は下げなくともよいと思われる。</p> <p>委員 単純に参加者数25名は少なく感じるが、会場への送迎はあるのか。</p> <p>説明員 送迎は行っている。実人数25名なので、延べ人数にするともっと多い。3ヶ月の短期集中プログラムであり、春に参加した方が再度秋に参加するなどの状況があるため。</p> <p>委員 参加にあたり年齢の条件はあるのか。</p> <p>説明員 65歳以上で要支援1~2及び事業対象者に該当する方となっている。</p> <p>委員 感染症による人数の調整については十分に把握している。仕方がないと思う。</p> <p>委員 施設との調整が簡単なことではないため、目標値については仕方がない。冬場になると参加しなくなるということも考えられるため、年間ではばらつきが出ると思われる。通知の仕方を工夫するなど考えていただきたい。</p> <p>説明員 国の介護予防活動普及展開事業の伴走的支援にエントリーし、令和6年度に採択された。活用して様々模索していく考えである。</p>		
外部評価の 意見	周知に努め、引き続き進めていただきたい。		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	家族介護継続支援事業		
担当課	健康福祉課	担当係	介護保険係
日時	令和6年7月11日 9:30~9:45		
質疑応答 (発言者)			
委員	令和6年度から特別給付事業に変わるということだが、利用者の不利になるようなことはあるか。		
説明員	対象者の条件が変わり、対象となる幅が狭くなったことから、該当とならなくなった方はいるが、説明を行い御理解は頂いている。制度設計の際も、他の市町の状況を参考にしながら、他市町と差がないように考慮した。		
委員	対象金額の区分はどのように決定されるか。		
説明員	介護度と住民税の課税状況により決定される。		
委員	支給された方が少ないことが逆に嬉しいことと感じる。		
委員	目標値1,000人というのは、対象者が多い方が良いと、本質とは逆の意味にも取れてしまう。健康なほど対象者は少ないため、目標値は低くてもいいのではないか。		
説明員	目標値については、介護保険計画に合わせ見直す予定である。		
委員	他市ではチケット制で自分で引き換えに行くところもあるが、配達を行う意図は何か。		
説明員	チケット制についても検討したが、チケット作成の費用や、対象が高齢世帯である場合も多く、引き取りのための移動が難しい方がいることを考慮し、配達で対応している。		
委員	活動量の評価が2である理由は。		
説明員	事務局から示されている基準に則り計算し、数値としては2となる。		
委員	事業を活用していない人もいると思うが、理由はどのようなものか。		
説明員	入院により一旦配達を停止する方、登録はしていたが施設入所となった方など、理由として個々により様々見受けられる。		
委員	活用しない理由が周知漏れなどによるものではないため、活動量の評価を下げる必要はないのではないか。		
委員	活動量の評価が2であることには疑問を感じる。活動としてはしっかりやられていると思うため、評価としては低い。		
委員	目標値については変更していただきたい。		
外部評価の 意見	目標値を見直し、進めていただきたい。		方向性
			改善

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	遊佐高校就学支援事業（キャリアアップ支援）		
担当課	教育課	担当係	総務学事係
日時	令和6年7月11日 10：20～10：55		
質疑応答 (発言者)			
委員	地元就職のために支援を行うならば理解できるが、単に運転免許取得のために支援を行うのはなぜか。		
説明員	土地柄、車がないと就職が難しい。他校との差別化を行っている意味もある。		
委員	遊佐高生のための支援は多いと感じる。だが、いざ進路選択するとなったとき、遊佐高校が選ばれない。選ばれない理由を分析しているか。		
説明員	部活動が少ないことも考えられる。県内外問わず、部活動に特化した学校を選ぶ生徒もいる。また、就職や進学の部分で生徒の希望に沿ったものが少ないのかもしれない。関東圏の名が知れた大学の推薦枠の確保も必要と考えている。いずれにせよ、進路の部分での強化の必要性を感じている。		
委員	部活で受験日まで勉強の継続を希望しない子もいるとなると遊佐高校の選択肢が無くなる。ヘルパー資格受験者は昔は多かったのか。		
説明員	昔は10名前後であったが、現在は5名。予算上は広く対応できるように準備している。人数については波があり、正確に読むことが難しい。		
委員	受験者数が減少した理由と関連性があるかはわからないが、実際に現場に出ると、長く続かない状況があると聞く。		
委員	介護職については実際に現場に出てみないとわからない部分もある。スキルアップという点で考えるならば、他の資格も選択肢に入らと思う。		
説明員	デュアル実践を行っているが、職場を実際に見てもらっていることは重要だと思う。		
委員	高校のイメージアップについては、価値観を変えて入学するしかない。昔からのイメージが定着してしまっている。運転免許取得支援の対象は進学者も対象となるのか。		
説明員	対象となっている。		
委員	「地元」の範囲はどこまでを指すのか。地元就職しないと返還等の措置はあるのか。		
説明員	地元の定義については幅広くとらえている。例えば、一度大学進学し、将来的に戻ってくるなどでも問題はない。場所の制約等についてはない。		
委員	運転免許取得支援では、進路未定でも給付の対象となるのか。進路決定後の申請ではないのか。		
説明員	進路が未定でも対象としている。仮に運転免許取得の試験結果が不合格の場合でも、返還の対象とはしていない。		
委員	通学支援について、地元に住んでいる子どもに手厚くとあるが、遊佐に住んでいて酒田へ通う子どもへの支援はあるか。		
説明員	その支援はない。支援の会はあくまで遊佐高生のためのものと認識いただきたい。		
外部評価の 意見	計画的に事業を進めていただきたい。		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	遊佐高校魅力化地域連携支援事業		
担当課	企画課	担当係	企画係
日時	令和6年7月11日 11時05分～11時28分		
質疑応答 (発言者)			
委員	生活相談員の謝礼の中に地域おこし協力隊への謝礼も計上されているのか。		
説明員	計上されていない。寮母の分のみが計上されている。		
委員	生活相談員1人に対して謝礼が1220万円なのか？		
説明員	生活相談員17名に対して1,220万円。シフトを組んで業務を行っている。		
委員	令和3年度分の外部評価の意見のところに「他校にはない、遊佐校独自の魅力を…」としているが、現在他校にはない魅力はあるのか？		
説明員	まだ遊佐高校側でも苦慮しており、これから高校と協議していくところ。今のところ大々的に発信できる魅力についてはないと思っている。		
委員	県立高校だが、町がこれだけ補助しているのか。事業自体は素晴らしいが、相談員の謝礼が高く、寮も多く感じる。そのあたりは予算削減にならないのか。		
説明員	地域に高校があると町としてのメリットも多く、町としては町内唯一の高校を大事に考えている。高校がなくなることにより危機感を抱いており、この事業を行っている。寮は空き家を借りて寮としており、各生徒に部屋を確保するとなると5棟は必要。5棟でもぎりぎり現在1年生は相部屋になっている。シフトを組む段階でも現時点で限界があり、謝礼や寮の数についてはぎりぎりである。		
委員	空き家の物件と高校との距離は考えているのか。町中の物件はないのか。		
説明員	毎回高校に近い物件を探している。今年は町中の空き家物件を探して確保した。定住促進係や不動産業者にも協力してもらっているが、なかなか町中で探すのは大変。		
委員	空き家は多いが、なるべく生徒が快適に生活できるように受け皿をきちんとしてもらいたい。同様の制度を利用している県内の他市町の状況はどうか。人数確保できているのか。		
説明員	他校については把握していない。		
委員	目標値を達成しているが効率性が2になっているのはなぜか。		
説明員	コスト削減の余地があるのでその部分で2にした。		
委員	コスト削減の余地とは何を指すのか。		
委員	寮の数など。例えば寮を空き家数棟ではなく1つの建物にすれば生活相談員などその他削減できる部分がある。		
委員	制度を利用した留学生の卒業後はどの程度遊佐町に残っているのか。		
説明員	今は2名。他には、県外へ進学しても定期的に長期休みなど遊びに来て関係人口となっている。		
外部評価の 意見	引き続き計画的に進めていただきたい		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	在町外国人等の「暮らし応援」助成金交付事業		
担当課	企画課	担当係	企画係
日時	令和6年7月11日 11時30分～11時45分		
質疑応答 (発言者)			
委員	色々な国の方がいるが、日本語が話せない場合、申請する際など役場で外国語を話すことができる職員はいるのか。		
説明員	帰化した方は喋れる方が多い。技能実習生は会社の方と来ることが多いので苦勞したことはない。		
委員	直接こちらから申請のアプローチをすることは難しいと聞いたことがある。日本語教室もそうだが、技能実習生などにはどうアプローチ、周知していくかが課題だと思う。		
委員	特定の条件があるので、利用したい方は利用はできていると思うし、利用者も増えている。利用した方で起業した方はいるのか。		
説明員	把握していない。		
委員	起業につながればメリットになる。事業の周知は居住条件や住所など把握が難しいが、把握できるようつとめていただきたい。外国人の資格取得の助成制度はあるのか。		
説明員	あるが、あまり実績はない。件数的にはほぼないが、実績がない理由は不明。		
委員	技能実習生などの外国人を町としてはどう捉えているか。		
説明員	町としては、町にいてもらいたい。アジア圏がほとんどなので、アジアとの交流のきっかけの1つになるという意見もある。		
委員	日本語講座は何人来ているのか。ボランティアか。		
委員	少なくなってきた。目的にもよるが生活に必要であれば来るが、町でコントロールできることでもない。すべてボランティア。		
外部評価の 意見	引き続き周知に努め、計画的に進めていただきたい		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	観光イベント実施事業		
担当課	企画課	担当係	観光物産係
日時	令和6年7月11日 13時05分～13時30分		
質疑応答 (発言者)			
委員	有効性、効率性が2になっている理由は。		
説明員	令和5年度の達成度を見て目標値に達していないので、機械的に2となった。		
委員	目標値400万人にしている理由は何か。		
説明員	以前の評価の際に観光客入れ込み数が400万人前後だったため、そのまま400万人にしている。場合によっては300万人に減らすなど変更は辞さないかもしれない。ただ、目標なので大きく見ている。		
委員	遊佐町に宿泊するところがないのがもったいないが、建設の計画はないのか。		
説明員	遊楽里、しらい自然館、大平山荘を町で所有しており、遊楽里は建築から20年以上も経っている。当時は文化施設も兼ねており、宿泊に特化していないので、大きい数の人数が泊まれない状況。新しい計画はないが、鶴岡や酒田と違って観光しながら泊まれないので、今後観光のあり方を考えていかなければならないと思っている。		
委員	町内観光イベント負担金800万円の内訳は。		
説明員	花火大会350万円、鮭のつかみ取り・たらふく祭りに50～100万円、シートゥーサミットに200万円弱。		
委員	西浜コテージは素晴らしく他にはない施設だが、宣伝が足りていないように感じる。季節性に特化しているので、1年中宿泊客が呼べるように点ではなく線で考えてもらいたい。効率化はどんなことを指すのか？		
説明員	コロナ禍で受付などの仕方を変えて、事前受付などで事務の負担が少なくなった。お金のやり取りなど事務の見直しができたこと。		
委員	イベントサポーターとは何か。予算も大きいが。		
説明員	各種イベントを開催する時にスタッフとして動員がかかるが、職員だけでは賄いきれないので、10名程度株式会社総合交流促進施設に業務委託している。年間数十件あり、イベント内で物販なども行い、町をPRしてきてもらっている。		
委員	クルーズ船のお客さんを遊佐町に呼び込む方法はあるのか。		
説明員	委員会で話になるが、旅行代理店ですでにプランニングできているため難しいかもしれないが、町に呼び込めるツアーなど希望はしている。		
外部評価の 意見	目標値の見直しを行い、誘客の促進に努めていただきたい。		方向性
			改善

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	観光情報提供事業		
担当課	企画課	担当係	観光物産係
日時	令和6年7月11日 13時32分～13時42分		
質疑応答 (発言者)			
委員	地域おこし協力隊が情報発信で発信力がある。今まで遊佐町に関心のなかった層にもアプローチできていると思っているし、周りからも評価されている。地域おこし協力隊とも連携できていると感じる。それなのに効率性のところは2ではなく3でもよいのではないか。		
説明員	地域おこし協力隊は自主的に行っている活動なので、観光物産係としては有効性が足りなかったという認識で2にした。		
委員	目標値は上回っているし、自信をもって有効性は3としてもいいと思う。成果指標の設定の仕方問題ないと思う。このような数字の出し方しかないと思われる。観光協会とはこの事業において連携をしっかりと行っているのか。		
説明員	住み分けをしており、観光のことは観光協会が発信し、町は通過点として町のホームページでも紹介するが、観光協会の詳しいホームページにリンクで飛ぶようにしている。一元化はできている。		
委員	住み分けはきちんとした方がよい。地域おこし協力隊も一生懸命活動している。		
外部評価の 意見	観光案内の一元化など計画的に進めていただきたい。		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	グリーン&ブルーツーリズム実施事業		
担当課	企画課	担当係	観光物産係
日時	令和6年7月11日 13時43分～13時58分		
質疑応答 (発言者)	<p>委員 妥当性は3なのに有効性が1なのはなぜか。縮小させたい事業なのか。大事な事業なので力を入れればもっと成果が伸びると思うが。</p> <p>説明員 事業を縮小させたいわけではない。妥当性も貢献度も3だが、有効性は目標値に届かなかったため、機械的に1となった。教育旅行などはだいぶ前から予定を組むため、コロナ禍に予定を組んだ場合、令和5年度以前に予定が決まってしまう場合が多く、目標値に達しなかったと思われる。</p> <p>委員 参加者数は来年度以降に期待したい。目標値の決め方も今後検討されたい。</p> <p>委員 参加者の内訳の人数は把握しているか。</p> <p>説明員 把握している。各小中学校の行事が多い。特に小学校の野外炊飯が多い。おもしろ自然塾でもそれぞれ十数名ずつの利用がある。</p>		
外部評価の 意見	遊佐町に不足している宿泊施設の確保に努めていただきたい。		方向性
			改善

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	I J Uターン就職支援事業		
担当課	企画課	担当係	定住促進係
日時	令和6年7月12日 午前9時5分～午前9時25分		
質疑応答 (発言者)			
委員	R5成果指標0人となった原因は。		
説明員	申請があつて初めて計上されるが申請者が居なかった。また、相談窓口を通じた移住者にも該当者がなく、結果として最終的な申請まで至らなかった為0人（0件）であった。		
委員	事業説明の中で来年度の方向性についての話があつたが、事業として廃止するという事ではないという認識で良いか。また、今の説明は、2つある事業のうち両方の内容についてのことであつたか。		
説明員	性質が異なる2つの事業が同じ評価シートに入っているため、トータルでの評価が難しい。ただ、「I J Uターン定着激励金」については、廃止を含めて見直しを行つても良いのではと感じている。遊佐町を選んでもらう決め手として、正規雇用の10万円交付よりも就職に繋がる支援を実施する方が効果的ではないかと考えている。「I J Uターン定着促進事業」については、県でも同様の事業を実施しているが、重複申請が可能であることから、移住相談を受けるうえでも、移住先として遊佐町を選んでもらうにあつてのアドバンテージになるのではと考えている。		
委員	そもそも雇用先がないと制度利用自体難しい。雇用先の相談については。		
説明員	雇用支援に関し、雇用先の紹介はしていない。		
委員	「I J Uターン定着促進事業」は、引き続き支援を実施しても良いと思うが全国各地で同様の支援が沢山ある。雇用先の斡旋など出来れば、他との差別化が図れるのではないか。		
説明員	雇用先の紹介は、基本的にはハローワークなどを通して行うこととしている。現在の求人状況に関しては、仕事内容が本人の希望等と合えば、就職が決まる状況にあると聞いている。町としては、就職活動をするうえでの支援の一つとして、交通費の補助などを行っている。		
委員	活動量を「2」とした理由について。		
説明員	活動内容は主に、周知及び（移住相談の際の）制度説明である。周知がメインであることから活動“量”「2」とした。		
委員	この事業は受動的事業であることから、貢献度「2」は妥当である。来た人のニーズを上手く捉えられるよう周知以外の方法について考えていただきたい。また、1世帯に4人いる場合成果が4人（1件）となり成果指数がわかりづらいので成果指標設定の考え方について検討いただきたい。		
外部評価の 意見	各助成金の見直しを行っていただきたい。		方向性
			改善

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	若者ふるさと回帰推進事業		
担当課	企画課	担当係	定住促進係
日時	令和6年7月12日 午前9時25分～午前9時40分		
質疑応答 (発言者)			
委員	対象者は県外への転出者ということか。転出者数について何人くらいいるか。また、対象となるのは未婚者か。県外で家庭や仕事があると難しいと思うが。		
説明員	首都圏が会場となるため、会場へ来られる首都圏近郊の方で遊佐町出身者または遊佐町に所縁のある方が対象となる。転出者数は過去10年間を見ると、16～20歳・21～25歳の年齢層が20～30人単位。将来的に遊佐町へのUターンを選択肢に入れてもらうきっかけ作りのための事業。未婚・既婚に限らず対象としている。		
委員	直接案内を送っているのか。また、対象となるのは大体何人くらいか。		
説明員	直接案内は送っていない。対象となる人数の把握も困難。		
委員	案内方法について。		
説明員	町のHPやライディングページ、ポータルサイトの他、ふるさと回帰支援センターなどでのイベントの情報発信を実施。また、県外移住家族へのロコミになればとの思いからチラシの全戸配布を行っている。		
委員	年齢制限はあるのか。		
説明員	年齢の制限は設けていない。昨年度の参加者はすべて20～30代であった。		
委員	目的「地元に戻ってきたい若者への情報発信」に対し、成果指標「Uターン者数」では目標と成果の関係性が成り立っていないのではないかと。例えば目的に対する成果指標を「イベント参加者のプロフィール作成件数」等とすれば、目的と成果指標の関係性が成り立つのではないかと。そこは考えていただきたい。 また、イベントメインの事業だとすると、何も無いところでイベントを行うことは難しいため、イベント関係団体等に対する事業協力依頼などを行うことで、人数以外の情報の集約・収集もできるのではないかと考えるがどうか。		
説明員	これまでの協力団体であった「遊人会」は現在は解散しているが、一部のメンバーを通じて一緒に事業を実施している。今以上にネットワークをしっかりとれるような形にもっていければ継続性も生まれるのではないかと考えている。		
委員	個人情報保護等で人数把握が難しいとは思いますが、人数がまったく分らないというのは事業としてどうなのか。また、事業内容に「定期的なイベント」とあるが、チラシのイベント以外にもなにか実施しているのか。		
説明員	「若者ふるさと回帰支援事業」としては年1回の開催。		
委員	令和5年12月2日開催の時の人数は。		
説明員	11名の参加があった。また、先ほど「対象者の把握は困難」と申したのは、あくまでも対象者人数に対してであり、イベントへの参加人数は当然把握している。町からの情報発信を希望する方に対しては、リスト化を行い整理している。		
委員	「I」Uターン就職支援事業も、「若者ふるさと回帰推進事業」もそうだが、遊佐町の事業ではあるが、実際の就職先としてはより広域的である「庄内北部定住自立圏」でも成立するという含めて説明しているということシートの中に記載しても良いのではないかと。		
委員	民間ネットワークのレベルで発信出来れば、移住者やイベント参加者が増えるのではないかと。		
外部評価の意見	将来的にも大切な事業、着実に進めていただきたい		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	移住・交流推進事業		
担当課	企画課	担当係	定住促進係
日時	令和6年7月12日 午前9時40分～午前9時55分		
質疑応答 (発言者)	<p>委員 自分の周囲では若い方よりも定年を迎えた方の方が多く移住している。遊佐の魅力についてどのように捉えているか。</p> <p>委員 自分も色んな方から聞かれるが、移住したきっかけは、空気がきれいであることや鳥海山があったりと本当にたくさんの魅力があると感じたからである。定年を迎えた方の移住が流行っているということもあるので、そこもターゲットのひとつではないのかなと感じている。</p> <p>委員 予算に関して、旅費や委託料の中身について教えていただきたい。また、外に向けての発信や独自の施策はどの自治体でも行っているし、差別化を図っている現状があると思うが、地元の方が遊佐の魅力を認識していないことが課題の一つであると感じる。地元の方に対して遊佐の魅力を発信し、ひいては、町ではなく地元の方から遊佐は良い所であると発信出来た方がその効果は大きいと思うが、そのことについてどのように考えているか。</p> <p>説明員 委員委員の仰ったように遊佐町の魅力を遊佐町の方からも知ってもらうことが重要というのはその通りだと思う。</p>		
外部評価の 意見	効果的な情報発信に努めていただきたい		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	移住交流推進支援事業		
担当課	企画課	担当係	定住促進係
日時	令和6年7月12日 午前9時55分～午前10時06分		
質疑応答 (発言者)	<p>委員 コロナ前の参加人数について。</p> <p>説明員 ～回答保留～（後日回答：令和元年は144人、平成30年は139人、平成29年は146人）</p> <p>委員 この事業が町の就農に繋がっているか。</p> <p>説明員 今年度すでに3世帯の移住があった。</p>		
委員			
説明員			
委員			
説明員			
委員			
外部評価の 意見	関係団体と連携し、進めていただきたい		方向性 継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	空き家再生地域おこし事業					
担当課	企画課	担当係	定住促進係			
日時	令和6年7月12日 午前10時27分～午前10時42分					
質疑応答 (発言者)	<p>委員 現在の空き家バンク登録物件数は。</p> <p>説明員 現時点で14件。</p> <p>委員 空き家リフォームは誰が実施するのか。</p> <p>説明員 空き家を利用する方が実施。</p> <p>委員 ターゲットが絞られる（空き家バンク利用+起業+移住）。2つだけではダメなのか。担当課年度評価（方向性の理由）に「～この事業を継続する」とあるが評価基準の方向性を「改善」としている理由は。</p> <p>説明員 起業しない場合でも、別事業で補助対象としている。方向性を「改善」としたのは、「有効性」「効率性」「活動量」を入力することにより自動判定されたためこのような判定となった。担当としては「継続」と考える。</p> <p>委員 この事業はハードルが高いが、需要はあると思う。起業するに見合った空き家はあるか。</p> <p>説明員 空き家である以上、そこを活用し企業するにはかなりの費用がかかるため補助を行っている。古民家を店舗として活用したい方は一定数いるので、遊佐町としてPRは出来るのではと思う。</p>					
外部評価の意見				各メディアを活用した周知方法を検討していただきたい。		方向性
						改善

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	定住住宅空き家活用事業		
担当課	企画課	担当係	定住促進係
日時	令和6年7月12日 午前10時42分～午前10時55分		
質疑応答 (発言者)			
委員	10年借り上げ期間後の取り扱いについて。		
説明員	引き続き相対で賃貸契約を締結。		
委員	空き家バンクの登録を考えていても、場所によっては借り手がつかないのではとの考えから登録しづらいと考える方もいらっしゃるのではないか。 また、リフォームが誰が実施するのか。		
説明員	そういった方に対しても、遊佐の魅力のお話と一緒に、移住者からするとそれが魅力だったりする。引き続き登録促進につなげていければと思う。 リフォームの補助に関しては、売買・賃貸いずれも対象。ただし成約後の物件が対象。所有者・利用者どちらも申請可能。		
委員長	空き家バンクを通さずに、契約した場合は成果指数に入っていないのか。		
説明員	成果指数はあくまでも空き家バンクを通して成約した棟数。		
委員	賃貸料は幾らぐらいか。		
説明員	オーナーの意向や、物件の状態にもよるが凡そ3～5万円ぐらい。		
外部評価の 意見	引き続き着実に進めていただきたい		方向性
			継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	集落支援員活用事業		
担当課	企画課	担当係	定住促進係
日時	令和6年7月12日 午前10時55分～午前11時10分		
質疑応答 (発言者)	<p>委員 目標値40人とした執行計画について。</p> <p>説明員 コロナ前は40人近い実績があった。過去の実績値より目標値を40人としている。</p> <p>委員 空き家バンク制度の説明は移住希望者の他にも行っているか。</p> <p>説明員 移住者希望者、空き家所有者、集落の区長に対して説明を実施している。</p> <p>委員 集落支援員は3つの組織のうちの1つとの説明があったと思うが、3つの組織とは。</p> <p>説明員 定住促進係、NPO田舎暮らし遊佐応援団、集落支援員の3組織で町の移住者支援活動を行っている。</p> <p>委員 集落支援員を増員する予定は。</p> <p>説明員 現在の業務内容であれば増員する予定はない。</p> <p>委員 移住された方の現状については。</p> <p>説明員 移住した後も移住者交流会を実施し、全員ではないものの、参加いただいている。</p> <p>委員 現在の集落支援員の後任となりえる人材はいるか。</p> <p>説明員 広く募集をかけることになると思うが、遊佐のことを知っている方や移住経験者のなかで、活動内容に興味がある方がいらっしやればと思う。</p>		
委員			
説明員			
委員			
説明員			
委員			
説明員			
委員			
説明員			
委員			
説明員			
委員			
外部評価の 意見	現状に沿い計画的に進めていただきたい		方向性 継続

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	移住世帯上水道使用料助成事業		
担当課	企画課	担当係	定住促進係
日時	令和6年7月12日 午後1時～午後1時20分		
質疑応答 (発言者)			
委員	成果指標の数は申請者数か。		
説明員	申請者数である。		
委員	一定量とはどこに記載があるか		
説明員	事業の概要に記載がある。		
委員	一般家庭ではどの程度使用量か。		
説明員	正確な平均は把握していないが、申請があるものは16m ³ ～18m ³ 位が多い。		
委員	基本料金を超えた部分という理解だが、そうすると基本料金を超えないと該当にならない場合があるのか。		
説明員	これまではそのような内容だった。令和5年度のシートなのでこのように記載したが、令和6年度からは基本料金相当額を補助する形式に見直ししている。		
委員	基本料金を超えた分を補助の場合は必要以上に使う可能性があるのでは、基本料金相当額に見直すことは良いと思う。		
外部評価の 意見	幅広く支援が受けられるように要件を見直していただきたい。		方向性
			改善

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	結婚支援推進事業		
担当課	企画課	担当係	定住促進係
日時	令和6年7月12日 午後1時20分～午後1時45分		
質疑応答 (発言者)			
委員	委員は何名程度いるか。なかど会とは関係があるのか。		
説明員	結婚推進員の母体が商工会で実施していたながどクラブである。現在17名が登録している。		
委員	地区で分けているか。		
説明員	地区で分けていない。推進員については形骸化しているのが現状だが、庄内北部定住自立圏の兼ね合いがあるので辞められない。		
委員	毎年度同じである。庄内地域との兼ね合いがあるので、辞められないことも理解しているし、今の若者の結婚のニーズに合っていないとも感じる。		
委員	時代に合っていない、事業の必要性が疑問であるが、遊佐町だけで辞められないということは理解できた。		
委員	委員委員ではいけないのではないか。		
委員	委員に入れては。		
委員	役場内の男性職員は結婚に関してどのように考えているのか。		
委員	今は結婚に関する質問はデリケートな問題で聞くことは難しい。		
委員	もし今年度変わったことがあればお聞かせ願いたい。		
委員	広域でメタバース婚活を年2回行う。集まらない。結婚と言うことに関して行政としての関わりが難しいと感じる。若者が今望む支援を取り入れながらやっていきたい。		
委員	婚活イベントについて、過去の事例を教えてください。		
委員	郵便局でポストコンを行った。		
委員	少子化対策というくくりのなかで結婚支援は大切になってくる。若者支援や少子化対策は所管がない。そのため若者支援というくくりで定住促進係に入っている。国などは子育て支援、環境づくりということで、福祉部門が担っている。定住促進係として正直なところマンパワーが足りないと感じているので、根本から見直すとしたら、そういった視点も必要かも知れない。		
委員	「行政関与がふさわしいのか」というキーワードを入れてもいいかもしれない。		
委員	難しい事業だと思う。		
外部評価の意見	現状を踏まえての進め方を検討していただきたい。		方向性
			縮小

令和6年度 行政評価外部評価ヒアリング 調書

事業名	舞鶴地区若者定住促進事業		
担当課	企画課	担当係	定住促進係
日時	令和6年7月12日 午後1時50分～午後2時10分		
質疑応答 (発言者)	<p>なぜ移動手段などがある若者が街中なのか、足がない高齢者のほうが街中に需要があるのではないか、という気持ちはあるが、若者の定住なくして遊佐の未来はないということと理解できる。</p> <p>この土地は起債が入っており「若者」のためという縛りがあるので、若者のための土地となる。</p>		
委員			
委員			
外部評価の 意見	適切に事業を進めていただきたい。		方向性 継続